妊婦の貧血と胎児・母体に及ぼす影響に関する研究
(分担研究報告書)

愛育病院産婦人科　藤　井　　仁

I　愛育病院産科で分娩した産婦について，妊婦の貧血が母子に与える影響を検討した。

1)20才台と30才台とに分けて比較してみると30才台が貧血例が多かった。　2)初産と経産との間に貧血の程度の有意差はなかった。3)分娩週数では，貧血妊婦の方が短かいという結果は得られなかった。　4)初産婦においては対照群と重症貧血群との間には，分娩時間に有意差あり，後者が長かった。経産婦においては，重症貧血群の方が分娩時間が長くなる傾向がある。5)微弱陣痛については初産婦では重症貧血群に頻度高かった。経産婦では有意差はない。　6)分娩時出血量に関しては出血量500 mℓ 以上の例数を対照群と貧血群と比較してみると有意差はない。出血量750 mℓ 以上の例数を比較してみると，貧血群および重症貧血群の方が対照群より例数が多くなっている。　7)対照群と貧血群との間に妊娠中毒症罹患の有意差はない。　8)貧血の程度と浮腫に関しては，対照群と重症貧血群との間に有意差は認められなかったが重症貧血群の方が浮腫が多いという傾向がある。　9)妊娠27週以前では30才台の方が20才台より貧血発現時期が早い。　10)対照群と貧血群との間に浮腫発現時期の有意差は認められなかった。11)経産婦の方が初産婦より貧血が早く現われる。　12)貧血群の方が対照群よりも浮腫は早い時期に出現する傾向にある。妊娠週数別妊婦の貧血の出現率は，一般に漸増の傾向ありと考えられているが，本調査では24週から27週で減少が認められた。　13)妊娠週数別・妊娠中毒症出現率については例数が少なく，検討は不可能であった。　14)対象児についての児の出生時体重，仮死の頻度，ビリルビン値，ヘマトクリット値，赤血球数，血色素，日令5日までの体重減少状態，等の平均値および満一才時歩行通過率を比較検討したが，対照群，貧血群との間に，有意差は認められなかった。

II　分娩前後の母体末梢血中のヘモグロビン値差と産褥初発排卵について検討した。

一般的に産褥過程の初発排卵出現時期を左右する大きな因子は授乳状態であるが，褥婦の貧血状態によっての産褥初発排卵状態の差を比較検討した。

1)慶応病院，および済生会宇都宮病院にて分娩せる褥婦について行なった。妊娠前半，後半の2回の末梢血検査成績のうち，Hbの平均値と産褥7日目までの同検査中のHb値の差を求め，その差と産褥初発排卵までの日数，産褥初回月経様出血までの日数との関連性をみた。

2)妊婦の貧血状態と産褥初発排卵については，妊娠末期のHb値より，4 g/dℓ 以上低下している褥婦の排卵までの日数は，126.5日，4 g/dℓ 未満の低下例では，91.6日であった。

3)産褥初発排卵時の褥婦のHb値については，妊娠中のHb値より4 g/dℓ 以上低下8例，2〜4 g/dℓ の低下20例，±2 g/dℓ 未満の変化52例，±2 g/dℓ 以上10例であり，産褥初発排卵を示す時期は分娩によって，貧血を呈した褥婦が妊娠末期の状態に回復した時点であることを示している。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

I 愛育病院産科で分娩した産婦について,妊婦の貧血が母子に与える影響を検討した。